

**今後の県立高校に関する地域検討会議（第3回）（盛岡②地区）**  
**意見交換の記録（要旨）**

【八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町】

令和7年12月18日（木）

盛岡地区合同庁舎 8階 大会議室

■ 質問

**星 俊也 八幡平市教育委員会 教育長**

- ・ 大船渡東高校の食物文化科の募集停止時期が令和12年度に延長となったが、同じ家庭の学科である平舘高校の家政科学科の募集停止時期は変更としない理由は。

**西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 平舘高校家政科学科については、令和5年度の志願者が9人、令和6年度の志願者が6人、令和7年度の志願者が3人と3年連続10人以下であったため、これ以上状況を見る必要はないものと判断した。
- ・ 大船渡東高校については、宮古地区の校舎の一体整備時期の遅れにより、集約時期をずらしながら、教員配置等も検討することとした。

**武田 哲 滝沢市長**

- ・ 県内には水沢ダウンやリーガルの工場があり、県北地区には様々な縫製工場もある。平舘高校の家政科学科がなくなれば、盛岡以北で家庭を専門的に学ぶ場がなくなってしまう。
- ・ また、家政科学科の名称について、工夫が必要と考えるが、名称についてこれまで見直し等は検討してきたのか。

**西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 学科名については、学科改編や学科名の変更、教育課程などについて、各学校からの要望を吸い上げる取組をしている。
- ・ 家政科学科については、入学者が1桁の前半という状況の中、教育の質を保証できるのかといった点について検討を重ね、募集停止の判断に至ったもの。
- ・ 家庭の学びの機会の保障としては、盛岡農業高校の人間科学科において同様の学びは確保できている、現在、八幡平市からも生徒が通学しているという状況も踏まえ判断したもの。

**武田 哲 滝沢市長**

- ・ 家政科学科への入学者が少ない状況について、これまで、学校、県教委の工夫が不足していたと感じる。
- ・ 家庭の学科については、男子生徒も募集しやすいように工夫する必要がある。
- ・ これから、岩手の食や製造業をどのように支えていくのかといった点に課題を感じている。

**佐々木 光司 岩手町長**

- ・ いわて留学の募集枠に変更はないのか。

**西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ いわて留学の募集枠については、募集定員の20%までというルールがある。
- ・ このルールについては、平成30年度に有識者の方々からの意見も踏まえ定めたもの。いわて留学

生が増加しているという現状を踏まえ、再度、検討する時期に来ているかを感じている。

## ■ 意見交換

### 佐々木 孝弘 八幡平市長

- ・ 平舘高校家政科学科の募集停止について、修正案で修正されなかったことについて、非常に残念である。
- ・ これまで、市内中学生の進学率向上に向け説明会等を実施し、今年度の体験入学者が、昨年度の26人から46人に大幅に増加した。しかし、再編計画が公表されてから志願予定者が10名ほど減ったという話を聞いている。
- ・ 地域みらい留学についても取組を進めており、国の地方創生推進交付金の活用も見込みながら、寮の整備等も行っていきたいと考えている。あと、数年間状況をみてもらいたい。
- ・ 家政科学科の募集停止について、市長、教育長名で知事、教育長あてに要望書を提出した。また、今月26日に市議会からも意見書を提出する予定。さらに、同窓会や市民の中で署名活動も行われている。
- ・ 盛岡以北において、家庭科を総合的に学ぶことができるのは家政科学科のみである。募集停止について再度検討してもらいたい。

### 佐々木 光司 岩手町長

- ・ 県内の子どもの数が激減していく中で、いわて留学について柔軟な環境整備をお願いしたい。
- ・ 現在、沼宮内高校においては8人の募集枠であるが、宿泊施設の問題をクリアした上で、定員の半分程度にすることも可能とするような柔軟性があっても良いのではないかな。

### 武田 哲 滝沢市長

- ・ 人口減少が進む中、岩手の文化をどう守っていくか、子どもたちがどこで学びたいか、選べる自由度を高めていくことが必要。
- ・ 平舘高校においては、紫根染の学習に取り組んでおり、パリ万博に作品を送った歴史もある。残すべき伝統といった点に着目してもらいたい。
- ・ 県内の出生数の半分は、盛岡周辺市町である。岩手の推進力になっていく子どもたちでもあるので、選択肢の幅を残してもらいたい。

### 熊谷 泉 紫波町長

- ・ 紫波総合高校について、交通の利便性がよく、他の市町村からの入学者も多いが、向こう10年の推計をみれば厳しい状況と認識している。
- ・ 現状は総合学科ではあるが、例えば、農場でブドウを苗木から育てて、ワインの醸造を行うワイン学科とする等、特定分野に特化した尖った学科とすることも有効なのではないか。
- ・ そういった特色ある学科であれば、県外からの入学者も来てくれるのではないかな。
- ・ 今回の計画は、小規模校に配慮した内容であると感じている。

### 塚田 崇博 Aqsh株式会社 代表取締役

- ・ AIの進展により、第三次産業やホワイトカラーといった分野の採用控えが起きてきている。そのような中、技術職やニッチな技術の分野の求人数は伸びている。
- ・ 岩手において、どのような人材が求められているのか、産業構造も踏まえ考える必要がある。
- ・ リーダーシップをいかに育むかといったことが重要。また、多様な経験、特化した経験を積むことが重要。
- ・ 平舘高校家政科学科出身の社員の話を聞くと、そういった特化した経験、学びが現在の自分の仕

事に活かされているという話を聞いた。

**立花 賢生 有限会社タチバナ 代表取締役**

- ・ 平舘高校の家政科学科の募集停止について、入学志願者が1桁前半という状況を見れば致し方ないとも考える。
- ・ しかし、地元からも何とか継続してほしいという声が上がっている。学科名を変えて男子生徒を入りやすくする等、知恵を出し合って継続させてもらいたい。

**中村 祐紀 有限会社外山商店 代表取締役**

- ・ 一番大事なことは、生徒が将来何をやりたいか、そこに向かって何を学びたいかといった視点。
- ・ 岩手町は、盛岡への電車の便が良く、盛岡の高校に流れていく。地元の高校の魅力を向上していくことが重要だが、なぜ盛岡の高校に進学する生徒が多いのか検証が必要。
- ・ 専門高校については、集約して教員や高度な人材を集めて学べる環境を作ることが非常に大事。また、集約先で学ぶことができるよう、寮などの環境整備が必要。
- ・ 専門高校以外の高校においては、地域ごとに小クラス、総合学科でいろいろなものが学べる形を残すのが良いのではないか。その場合、沼宮内高校で盛岡工業のカリキュラムが学べるとか、盛岡一高の授業をサテライトで受けることができるといった工夫も良いのではないか。
- ・ 校舎の老朽化の問題については、市町村立小中学校の廃校を活用するという方法もあるのではないかな。
- ・ 地域に高校を残す方法として、北海道や奈良県では町立、村立の高校もあるので、そういった方法もあるのではないかな。
- ・ 高校がない市町村とも連携し、地域探究や就職活動を広域で実施するとともに、高校生の力を生かす仕組みづくりが重要。

**府金 秀一 岩手町認定農業者協議会 会長**

- ・ 公立高校と私立高校の入学者の推移はどうなっているのか伺う。
- ・ 盛岡農業高校について、令和6年度、令和7年度において入学者が増えている要因を分析し、平舘高校にも生かせる可能性があるのではないかな。
- ・ 再編となると、減らす議論になってしまう。大学進学後に県外で就職し地元に戻らないことが人口減少の要因。減らす議論ではなく増やす議論をしたい。

**白澤 仁 株式会社栄建 代表取締役**

- ・ 黒沢尻工業高校の半導体関連への学科改編を計画したプロセスについて伺う。
- ・ 平舘高校の家政科学科を募集停止することで、県民にどのようなメリットがあるのか伺う。

**太田 豊 滝沢市農業委員会 会長職務代理者**

- ・ 農業業界においては、10年後に自身の農地を維持できない割合が相当高い状況。農地を手放したいと思っても、買い手がつかないという現状。
- ・ そのような中、滝沢市においては、若い新規就農者が増えており、前向きな取組がみられる。
- ・ 盛岡農業高校で学んだ生徒たちが、地元の農業現場で活躍することを期待している。農業委員会としても、盛岡農業高校との交流機会を設けている。
- ・ 盛岡農業高校の学科名については、分かりづらいものが多いと感じている。「農業科」「畜産科」「園芸科」といった分かりやすい名称への見直しを希望する。
- ・ 農業は県の基幹産業であり、盛岡農業高校はその基盤となる存在。県として、盛岡農業高校と他の農業高校への支援、連携強化をお願いする。

#### **阿部 真志 有限会社阿部製畳店 代表取締役**

- ・ 紫波総合高校について、様々頑張っているが学級数は年々減少している。
- ・ 総合学科高校の良いところは、農業、情報、調理など幅広く学ぶことができる点。
- ・ 卒業生の地元就職、定着率を高める取組をお願いしたい。商工会としても就職説明会の開催など連携をお願いしたい。

#### **高橋 淳 株式会社高橋農園 代表取締役**

- ・ 子どもたちに憧れを持たせる仕組が不足しているのではないか。また、役割や郷土愛を持たせる教育が必要であり、学校をただ通う場所ではなく、目的や責任を持たせる場所とするべき。そのためには、中学校までに将来や地域との関わりを考えさせる教育が重要。
- ・ 地域産業に必要な人材を育成する教育が不足している。高校においては、地域との結びつきを強化し、地元企業や地元産業と連携する仕組みを構築してほしい。
- ・ 現状だけではなく、10年後のニーズを見据えた高校再編としてほしい。

#### **山内 大輔 滝沢市立滝沢中学校PTA 会長**

- ・ 高校の再編は、学科や定員数だけで判断するべきではない。
- ・ 学級数や募集停止に関する基準は必要だとは思いますが、原則だけにとらわれないでほしい。専門学科はAIや機械では代替できない技術継承が含まれている。
- ・ 以前、テレビ局に勤務していた際、震災復興事業の一環で、生徒が作成した各高校の紹介映像を集めた番組を制作した。魅力ある学校には自然と生徒が集まるため、各校の特色、魅力づくりが重要。
- ・ 平舘高校の家政科学科については、保育士資格取得のため、実務経験を積むための就職先の斡旋や、岩手県立大学社会福祉学部へ進学しやすい環境整備といった特色を持たせるのも良いのではないかな。

#### **畠山 仁士 紫波町立紫波第三中学校PTA 会長**

- ・ 子どもの数が減少している中、学級数の削減や学科の見直しの必要があることは理解している。
- ・ 重要なのは、再編後の進路指導や、教育の質といった点である。
- ・ 子どもたちの将来への目的意識は、以前よりも強くなっている。これからも幅広い選択肢を用意してあげることが必要。
- ・ 子どもたちの選択肢を狭めないためにも、地理的条件による進学のハードルを下げる取組が必要。
- ・ 特色ある学校を維持し、県内外から通いやすい環境整備を希望する。

#### **星 俊也 八幡平市教育委員会 教育長**

- ・ 参加者の皆様から、平舘高校家政科学科の価値について、様々な視点から認めていただいていることを心強く思っている。
- ・ 家政科学科は、地域の産業を支える人材を輩出してきているとともに、盛岡以北における唯一の家庭科系の学科である。
- ・ 盛岡農業高校人間科学科の学びと平舘高校家政科学科の学びは似て非なるものであり、家政科学科でしか学べないもの、八幡平市の人々との関わりの中でしか学べないものがある。
- ・ 絶滅が危惧されたムラサキの栽培や紫根染、地元食材を活用した商品の開発等の特色ある活動を行っており、昨年度は文部科学大臣賞を受賞した。
- ・ 家政科学科の学びを切り捨てることは、地域の文化を消滅させることと同義であり、文化の火を消すことになる。
- ・ 八幡平市では、市を挙げて様々な取組を行っており、地域みらい留学にも数名の希望者が出てき

ている。また、寮の整備も検討中である。あと 3、4 年ほど猶予をいただきたい。

#### **佐藤 卓 岩手町教育委員会 教育長**

- ・ 子どもの数が減少している中、岩手町を始め各市町村で、地元高校への入学者を増やす取組を進めている。
- ・ 入学生の増加には時間がかかる。各市町村に時間の猶予を与えてほしい。また、県教委として協力をお願いしたい。
- ・ いわて留学の県外枠の拡大をお願いしたい。
- ・ 岩手の活性化というのも教育の目的の 1 つである。知事部局と連携し、県立高校を核とした市町村の活性化にも取り組んでほしい。
- ・ 小規模校に対し、地域と一体となって取り組んでもらえる熱意を持った教職員の配置をお願いしたい。
- ・ 県立高校の各学科から県立大学に進学するという環境を作ってほしい。

#### **太田 厚子 滝沢市教育委員会 教育長**

- ・ 高校の魅力化について、高校生のライフ、ワーク、キャリア形成をどのように支援するかが重要。
- ・ 少子化は避けられないが、子どもは確実に存在する。そういった中で高校の役割とは何かということを考えなければならない。
- ・ 滝沢市の中学生の進路については、スポーツで北海道や関東圏の高校に進学している生徒もいる。ホッケーがやりたいから沼宮内高校、相撲がやりたいから平舘高校、それから宮古水産高校にも進学している。また、小規模校の環境での学びを希望し雫石高校に進学する生徒もいる。
- ・ 中学生にとっての高校の魅力を考えた時、高校に望むことは、スペシャルな部分、ポピュラーな部分、支援を要する生徒への配慮といった点ではないか。
- ・ 平舘高校家政科学科の募集停止については、滝沢市としても残念に感じている。
- ・ 平舘高校、葛巻高校、沼宮内高校が普通科のみとなることが果たして良いのか疑問。
- ・ 盛岡周辺だけに集まるのではなく、子どもたちがその地域で学びたいものを、時間をかけて模索していけたらと思う。

#### **侘美 淳 紫波町教育委員会 教育長**

- ・ 今回の再編計画については概ね了とする。
- ・ 子どもたちにとっての選択肢も増える。この計画で進めてもらいたい。
- ・ 再編計画について、10 年、15 年ではなくもっと短縮し、検証を早めて次期計画に反映していくべき。
- ・ 紫波総合高校は、盛岡エリア唯一の総合学科高校である。魅力を高め、普通科や専門高校ではできない多様な人材育成を図っていくべき。
- ・ 紫波総合高校は、盛岡以北の市町に住む生徒であつても、通学時間 1 時間程度で受け入れることが可能となっている。
- ・ 紫波町ではノウルプロジェクトで廃校活用を進めている。また、大手の通信教育との連携も見据えている。民間企業の知見も含め、今後の公立高校の展望を考えていく必要がある。

#### **及川 博文 岩手地区中学校長会 （滝沢市立滝沢中学校長）**

- ・ 再編計画において、地域との連携、協働の強化、多様性への対応、共通性の確保が盛り込まれていることについて評価する。また、地域校の設定についても評価する。
- ・ 各高校の魅力化の取組については、学校説明会やパンフレット、動画等により中学生に示してもらっている。

- ・ 中学校では、入学者が5人、10人といった高校についてネガティブにはとらえていない。生徒が魅力を感じて進学しているはず。その魅力を掘り下げて考えることで次への展望が生まれるのではないか。
- ・ 部活動について、県立高校入試の取扱いが変更となったことに伴い、昨年から、特に県外の私立高校からの勧誘が増加している。おそらく、岩手県の動きを敏感に察知し、各私立高校が動いたのではないか。
- ・ 実際、私立高校を選択する生徒が増加している実感がある。生徒数が減少していく中で、私立、県外への流出も増加していくのではないかと心配している。また、県内の高校生の競技力低下にもつながるのではないか。
- ・ 再編計画の第一等地に部活動を盛り込むことは難しいかもしれないが、計画を進めるうえでは、部活動の部分もしっかりと触れながら進めてほしい。

## 西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ いわて留学の環境整備について、今年度いわて留学セミナーを開催するなど取組を行っているが、市町村によって課題等も異なるため、しっかりと状況把握をした上で取り組みやすい環境整備に取り組んでいく。
- ・ 特色・魅力ある学科の例として、大槌高校では普通科改革により地域探究科を設置し、地域資源に着目した様々な事業を行っている。他の小規模校においても、地域と連携した取組を期待している。
- ・ 再編計画のスパンを短くするべきとの意見について、今回の前期計画5年についてはこの形で進めさせていただくが、急激な社会変化が進む中において、時点での見直しも必要と考えている。
- ・ 専門高校の集約化について、今回の再編計画でも進めることとしているが、寮整備や通学支援についてもしっかりと検討していく。
- ・ 岩手へのUターン説明会や議論がこれまで以上に必要ではないかという意見について、今回の再編計画策定においては知事部局と相談し進めているところ。商工労働観光部からは、誘致企業や地場企業のUターン先の確保をするので、教育では、進学後に地元に戻ってくるよう郷土愛の醸成に取り組んでほしいという話をされている。また、農林水産部からも、第一次産業の担い手確保について、しっかりと連携するよう話されている。
- ・ 黒沢尻工業高校の学科改編について、北上市にはキオクシアがあること、県の商工労働観光部においてI-SPARKを設置したことなど、産業との連携といった点を踏まえ、半導体関連の学科を設置しようとするもの。
- ・ 平舘高校の募集停止により県民にどのようなメリットがあるのかという件について、県民へのメリットというよりは、生徒数が少ない中において、家庭の学びの質を確保できないということが理由である。
- ・ 学科の名称が分かりづらいという点について、各高校において、学校説明会等でしっかりと資料を用いて説明しており、中学生の進路選択に誤りがないように進めている。
- ・ 県立高校から県立大学への進学について、大学入試も変わってきており、総合型選抜で進学する生徒も増えてきている。従来の進学校以外の小規模校からの進学も増えてきている状況。地域で学んだ地域資源を生かした学びを総合型選抜でアピールすることで、進学につなげていければ良いのではないか。
- ・ 地域校について、今回の計画における最低規模は1学年2学級としているところであるが、自宅から通える学校、地域で学べる学校を残してほしいという思いを踏まえ地域校を設定したところ。今後は、それぞれの地域校で特色化・魅力化に取り組んでいただき、いわて留学のみならず、他地域の普通高校が進学先として選ばれるような取組も進めていければと考えている。
- ・ 小規模校への支援について、現在、国において、高等学校の無償化に伴い、公立高校に対し交付

金での支援を検討している。それらを活用し、公立高校の充実を図っていきたい。

**佐々木 孝弘 八幡平市長**

- ・ 盛岡農業高校の入学者が増加している件について、八幡平市から盛岡農業高校への進学者が増加しているということがある。聴き取りの結果、部活動において団体競技に取り組みたい生徒が盛岡農業高校を選択している場合が多いということが分かった。少人数でも魅力ある部活動を強化していく必要がある。
- ・ 平舘高校がこれまで2学級を維持できていたのは、家政科学科の存在が大きい。学科名の変更という提案もあったが、勢いだけで変更することについては懸念を持っている。
- ・ 平舘高校について、説明会等の取組により体験入学者の数が急増した。取組により成果が出ることが確認できたところであり、改めて家政科学科の存続を要望する。

**高橋 淳 株式会社高橋農園 代表取締役**

- ・ 高校の魅力発信について、各学校でY o u T u b eを活用し、学校動画を投稿して競い合うという取組が良いのではないかと。中学生にとっての進路選択にも寄与するものになると思う。

**白澤 仁 株式会社栄建 代表取締役**

- ・ 最終確認だが、平舘高校家政科学科の募集停止については、このまま決定するということになるのか。

**西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 今回の御意見等も踏まえ、2月上旬に最終案という形で公表することとなるが、その時点でも確定ではない。

**白澤 仁 株式会社栄建 代表取締役**

- ・ 平舘高校については、これまでの地域検討会議でも反対意見が出ていた。また、署名活動も行われている中で、変更がなかったということは確固たるものがあるのだろうと推察する。
- ・ それでも、各首長や教育長からの貴重な意見もあったので、子どもたちに学びの機会が与えられるよう、引き続き前向きに検討してもらいたい。

**中村 祐紀 有限会社外山商店 代表取締役**

- ・ いわて留学について、県教委で各高校のP Rをまとめ、共同プロモーションを実施したらどうか。
- ・ 部活動について、部活動のセンター校を作るとともに、地域のスポーツクラブに通う生徒への交通費の補助や練習機会の確保に努めてほしい。
- ・ 文化部については、私立高校において、ネット部活動を活性化させているという話を聞いた。ダンス部や音楽部において、東京の講師からオンラインで指導を受ける取組をしているとのこと。岩手県でもそのような取組を行ってみてはどうか。